

個別施策に付随する重要業績評価指標(KPI)の指標一覧

資料1－6 差替版

基本 目標	基本施策	個別施策	シート No.	KPI	担当課	指標 の方向性	進捗状況	従前値	単位	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	単位	目標年度	H29 実績 値	単位	フォローアップ (H29数値確 定)の時期	評価			効果発現要因
																					有効性	効率性	総合評価	
Ⅰ つくば市の特性をいかした産業競争力の強化で「1」をつくる	1 筑波研究学園都市に集積する最先端の科学技術から新たな産業をつくる	(1)科学技術の振興によるまちづくり	②-1	平成29年度から平成31年度までの国際戦略総合特区ライフイノベーション・グリーンイノベーションの推進による産業化促進	政策イノベーション部 科学技術振興課	↑	概ね順調	0	件	-	-	173	156	157	486 (合計)	件	H31年度	-	件	推計値(H30.5に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	本年度は、新たに9つ目のプロジェクトが追加されたとともに、初めて企業等を対象とした国際戦略総合特区成果発表会等を開催する等、事業が順調に進展していると推察される。(実績の集計・評価は、平成30年5月に予定。)
			②-2	Society5.0社会実装トライアル支援事業の採択件数	政策イノベーション部 科学技術振興課	↑	概ね順調	0	件	-	-	5	5	5	15(合計)	件	H31年度	5	件	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	Society 5.0という新たな社会システムの実現と、社会課題解決の実現のために開始した新規事業であり、ニーズの掘り起こしに成功した。
		(2)研究機関等の集積をいかしたイノベーションの創出	②-3	平成27年度から平成31年度までのベンチャー企業創出件数	経済部産業振興課	↑	やや遅れ	35	社	10	20	30	40	50	50	社	H31年度	24	社	推計値(H30.5に確定予定)	低:成果が低下(低水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	D:成果を向上させる必要あり	最先端の科学技術(シーズ)の産業化には、資金調達、人材確保等の困難が多いことによる。
			②-4	平成29年度から平成31年度までのつくばイノベーション・エコシステムの構築(医療・先進技術シーズを用いたスマート社会の創生事業)の実現による技術シーズの商品化、事業化、産業化等の創出件数	政策イノベーション部 科学技術振興課	↑	概ね順調	0	件	-	-	1	2	2	5	件	H31年度	1	件	推計値(H30.3に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	市が支援するつくばグローバル・イノベーション推進機構が採択された文部科学省補助事業「つくばイノベーション・エコシステムの構築事業」が順調に進展しており、成果につながった。
	2 東京近接等のポテンシャルを活用し、産業競争力を高める	(1)魅力ある農業形態の構築	②-5	担い手(認定農業者、新規就農者)農家数	経済部農業政策課	↑	順調	41	人	44	47	49	51	53	53	人	H31年度	62	人	推計値(H30.3に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	関係機関と連携した相談対応や補助制度等の支援
		(2)商工業・サービス産業の育成	②-6	平成27年度から平成31年度までの新規創業数	経済部産業振興課	↑	順調	24	人	36	72	108	144	180	180	人	H31年度	173	人	推計値(H30.5に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	平成26年度に構築した創業支援ネットワークが軌道に乗り、創業しやすい環境が整ってきたことによる。
	3 安心して働ける環境をつくる	(1)若者の人材確保	②-7	つくば市ふるさとハローワークにおける若者(16歳から35歳未満)の正規雇用者の割合	経済部産業振興課	↑	やや遅れ	43.5	%	44.8	46.1	47.4	48.7	50.0	50.0	%	H31年度	41.5	%	推計値(H30.5に確定予定)	低:成果が低下(低水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	D:成果を向上させる必要あり	ふるさとハローワークを市の中心部に移転し、アクセスの利便性が向上したことにより、相談件数は増加傾向にあるが、若者に関しては、利用そのものが減少している。要因としては、近年の売り手市場を背景として、新卒者が順調に就職していることが考えられる。
		(2)女性の活躍支援	②-8	つくば市ふるさとハローワークにおける女性就業者の割合	経済部産業振興課	↑	順調	60.9	%	61.8	62.6	63.4	64.2	65.0	65.0	%	H31年度	67.9	%	推計値(H30.5に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	ふるさとハローワークを市の中心部に移転し、アクセスの利便性が向上したことにより、相談件数は増加傾向にある。子育て世代が乳幼児同伴で相談ができるようキッズコーナーを整備した。
	Ⅱ 結増し・子どもを産み・育て・健康に生活できる環境をつくる	(1)子育て環境の整備	②-9	バースセンターの利用者数	保健福祉部健康増進課	↑	やや遅れ	48	人	78	108	138	168	200	200	人	H31年度	125	人	推計値(H30.6に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	バースセンターの増床工事が遅れているので、当面の間バースセンターの利用者数の大幅な増加が見込めない。 バースセンターを開設して5年目になり、市民の間に定着したため、利用者数 そのものは 増加している。
			②-10	市内で出産したくても出産できなかった人数	保健福祉部健康増進課	↓	遅れ	125	人	100	75	50	25	0	0	人	H31年度	100	人	推計値(H30.3に確定予定)	低:成果が低下(低水準を維持)している	低:費用対効果が低下(低水準を維持)している	E:抜本的な見直しの必要あり	バースセンターの増床工事が遅れているので、当面の間バースセンターの利用者数の 大幅な 増加が見込めない。このため、市内で出産したくても出産できなかった人が増える一因となっている。
		(2)出会いの場の創出	②-11	婚姻数の増加	こども部こども政策課	↑	やや遅れ	6,767	件	1,323	1,353	1,383	1,414	1,444	6,917	件	H27～H31年度	-	件	推計値(H30.10に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	結婚相談会を12月から市主催事業として実施するとともに、県マリッジサポーターが主催するカップリングパーティーに協力し、一定の効果を上げているが、 全体の底上げには至っていない。
		(3)障害者の地域生活支援	②-12	ペアレント・トレーニング受講終了者数	保健福祉部障害福祉課	↑	概ね順調	0	人	5	15	15	15	15	65	人	H31年度	16	人	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	他に同様のサービスが少なく、一定数のニーズがあるため。
			②-13	日中一時預かりサービス実利用者数	保健福祉部障害福祉課	↑	順調	206	人	212	218	224	230	236	236	人	H31年度	270	人	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	日中一時預かりサービス事業が順調に実施されているため。
			②-14	放課後デイサービス実利用者数	保健福祉部障害福祉課	↑	順調	159	人	179	199	219	239	259	259	人	H31年度	363	人	推計値(H30.4に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	障害児通所事業が順調に実施されているため。
			②-15	短期入所実利用者数	保健福祉部障害福祉課	↑	概ね順調	99	人	104	109	114	119	124	124	人	H31年度	88	人	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	障害福祉サービス事業が順調に実施されているため。
		(4)すべての世代の健康づくりと高齢者介護予防事業の推進	②-16	「健康長寿日本ーをつくばから」の事業参加者一人当たりの年間医療費	保健福祉部健康増進課	↑	やや遅れ	0	%	2.0	2.3	2.5	2.75	3.0	3.0	%	H31年度	-	%	推計値(H31.3に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	平成27年度運動教室参加者の一人当たり医療費は、前年度比103.0%であり、全体の一人当たり医療費は前年度比105.6%である。 平成28年度運動教室参加者の医療費は、平成29年度末に分析結果が出る。平成29年度参加者の医療費は、平成30年度に分析予定である。
	2 教育日本ーを目指し教育内容を充実する	(1)小中一貫教育の充実	②-17	児童生徒の9年間の学びの連続性を保障し、自己肯定感をもつ児童生徒の割合	教育局教育指導課	↑	概ね順調	78	%	78.5	79	79.5	80	80.5	80.5	%	H31年度	78.9	%	推計値(H30.3に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	系統的な学習と教科担任制の構築、小中の乗り入れ学習による学びの連続性が保障されたことにより、児童生徒一人一人の学力が向上し、自らの資質向上が実感できるようになったため。
			②-18	目的意識をもち周囲と協働して問題を解決しようとする児童生徒の割合	教育局教育指導課	↑	概ね順調	85	%	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	90.0	%	H31年度	81.1	%	推計値(H30.3に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	学園の特色を生かした協働的な課題解決型学習を実施してきたことで、児童生徒の連帯感が生まれており、進捗状況は概ね順調と見なす。
			②-19	小学校普通教室のエアコン普及率	教育局教育施設課	↑	順調	9	%	47.0	76.0	100	100	100	100	%	H29年度	100.0	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	熱中症等を防ぎ、良好な教育環境を整備できた。
		(2)ICT教育の推進	②-20	教員の学校ICT教育関連研修の延べ受講者数	教育局総合教育研究所	↑	順調	780	人	810	840	870	900	930	930	人	H31年度	906	人	推計値(H30.3に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	学校ICT教育関連研修が順調に実施されていることから、受講者数が増加している。
			②-21	プレゼンテーションコンテストの校内予選からの参加者数	教育局総合教育研究所	↑	順調	6,346	人	6,346	9,028	9,600	10,300	11,000	11,000	人	H31年度	11,343	人	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	教員のつくばスタイル科等の授業力の向上により数値が上昇した。
		(3)科学教育の推進	②-22	つくばびっ子博士バスポート提出者数	教育局教育指導課	↑	概ね順調	4,358	人	4,400	4,420	4,440	4,460	4,480	4,500	人	H31年度	3,803	人	確定値	中:適切な成果が得られている	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	A:費用対効果を維持して継続実施	平成28年度に認定基準を変更し2年目となり、指定見学施設を増やしたが、昨年度と同じく認定基準を満たすバスポート提出者は、目標値には満たなかったと思われる。ただし、施設来場者は昨年と比較し15,229名増えていることから、進捗状況は概ね順調と見なす。
		(4)教育現場の支援体制整備	②-23	毎日が楽しいと感じる児童生徒の割合	教育局教育相談センター	↑	概ね順調	88.0	%	88.5	89.0	89.5	90.0	90.5	90.5	%	H31年度	89.6	%	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	スクールカウンセラー及び学校生活サポーターを配置することで、学校が児童生徒の『居場所』になっていることが考えられる。
			②-24	友達といくと安心すると感じる児童生徒の割合	教育局教育相談センター	↑	概ね順調	93.0	%	93.2	93.4	93.6	93.8	94.0	94.0	%	H31年度	93.7	%	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	いじめや暴力的な行為や発言を許さない学級づくりが進んでおり、問題行動に対して、教職員の組織的な取り組みが行われているため。
	3 ワーク・ライフ・バランスを推進する環境を整備する	(1)男女共同参画社会の推進	②-25	「仕事」と「家庭生活」の両方を優先していると感じる市民の割合	市民部男女共同参画室	↑	順調	22.4	%	24.5	25.3	26.0	26.7	27.5	27.5	%	H31年度	31.0	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	男・女(ひとひと)セミナーにおいて、WLBIに関する講座を3回開催し、113人の参加があった。また、男女共同参画会議でもWLBIをメインテーマに基調講演を実施し、116人の参加があった。こうした学習機会を継続して提供した。そのほか、男女共同参画だよりでつくば市職員のノー残業デーに関する取組を紹介し、事業所への啓発を図った。また、実績値は、市民意識調査の結果を用いているが、今回の調査は、市政全般に対する意識調査で、回答者は30～50代の方が半数以上であった。一方、前回調査は、男女共同参画に関する意識調査で、回答者は50～70代が半数以上であった。回答者の属性の違いが、目標値を大きく上回った要因の一つとも推察できる。

基本 目標	基本施策	個別施策	シート No.	KPI	担当課	指標 の方向性	進捗状況	従前値	単位	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	単位	目標年度	H29 実績 値	単位	フォローアップ (H29数値確定)の時期	評価			効果発現要因
																					有効性	効率的性	総合評価	
Ⅲ 交流・居住環境の魅力を高め、つくばにひとを呼び、ひとを留める	1 魅力ある交流・居住環境を創出する	(1)つくば駅周辺地区のにぎわい創出	②-26	つくば駅1日平均乗車人員	都市計画部総合交通政策課	↑	順調	17,100	人	17,380	17,660	17,940	18,220	18,500	18,500	人	H31年度	18,900	人	推計値(H30.4に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	つくばエクスプレス沿線開発が進んだことにより、定住等が促進したことにより利用者増につながっていると推測される。また、他の鉄道との利便性が高いことなども利用者増につながっていると考えられる。
			②-27	つくば駅周辺を月1〜2回以上訪れる割合	都市計画部学園地区市街地振興室	↑	遅れ	68.0	%	68.0	68.0	69.0	69.0	70.0	70.0	%	H31年度	66.7	%	確定値	低:成果が低下(低水準を維持)している	低:費用対効果が低下(低水準を維持)している	E:抜本的な見直しの必要有り	市内外における大規模商業施設の立地、及びクレオの閉店等により、つくば駅周辺を利用する頻度が低下している。
		(2)低炭素まちづくりの推進	②-28	低炭素モデル街区の街区数	生活環境部環境課	↑	順調	1	街区	1	1	2	3	4	4	街区	H31年度	3	街区	推計値(H30.3に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	SMILEの施策「低炭素まちづくり誘導」に基づき、計画的かつ戦略的に誘導を行うため、今年度つくば市低炭素(建物・街区)ガイドラインを策定し、10月から運用を開始しました。H29年11月には街区「ココナプレクス学園の森内モデル街区」の認定を行いました。(2月15日累計数3)
			②-29	再生可能エネルギーの導入量	生活環境部環境課	↑	順調	8.5	MW	11.5	14.5	17.5	20.5	23.5	23.5	MW	H31年度	-	MW	推計値(H30.8に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	太陽光発電設備の導入増の要因としては、事業用メガソーラー施設の設置が進み、住宅への太陽光発電設置が標準化されつつあること等が考えられる。
		(3)快適な居住環境の整備	②-30	つくば市が住みやすいと感じている市民の割合	-	↑	順調	78.0	%	78.0	78.0	79.0	79.0	80.0	80.0	%	H31年度	81.6	%	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	研究学園都市の質の高い居住環境を始め、つくばエクスプレス沿線開発や公務員宿舍跡地再開発等で魅力向上が図れている。
		(4)文化・芸術の振興	②-31	文化・芸術の振興について満足している市民の割合	市民部文化芸術課	↑	概ね順調	42.9	%	43.4	43.65	43.9	44.15	44.4	44.4	%	H31年度	43.1	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	多彩なジャンルの芸術文化公演の招へいや体験型事業に加え、つくばの特色を生かした科学と芸術が融合する新たな文化芸術の推進(つくばショートムービーコンペティション等の開催)を図っている。また、市民文化祭では各会場において多くの団体に活動発表の場を提供することができた。
		(5)スポーツの振興	②-32	成人の週1回以上のスポーツ実施率	市民部スポーツ振興課	↑	順調	40.3	%	42	43.8	45.5	47.3	49.1	49.1	%	H31年度	53.7	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	平成26年3月に策定したスポーツ推進計画に基づき、市民が身近にスポーツをすることができる環境づくり等を総合的・継続的に実施したことによるものと考えられる。
			②-33	スポーツの推進について満足している市民の割合	市民部スポーツ振興課	↑	遅れ	43.7	%	45	46.3	47.7	49	50.4	50.4	%	H31年度	37.3	%	確定値	低:成果が低下(低水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	D:成果を向上させる必要有り	平成26年3月に策定したスポーツ推進計画に基づき、市民が身近にスポーツをすることができる環境づくり等を総合的・継続的に実施することにより目標値の達成を目指していく。
	2 つくば市を知り・好きになり・選んでもらう	(6)国際化の推進	②-34	国際会議の開催回数、参加者数及び外国人数	市民部国際交流室	↑	概ね順調	33 (9,644[1,459])	回数:回 (参加者 総数:人 うち外国 人数:人)	37 (10,616[1,607])	40 (11,588[1,755])	44 (12,560[1,903])	47 (13,532[2,052])	50 (14,500[2,200])	50 (14,500[2,200])	回数:回 (参加者 総数:人 うち外国 人数:人)	H32年	44 (18,338[2,839])	回数:回 (参加者 総数:人 うち外国 人数:人)	推計値(H30.12に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	今年度外国人参加者数が多いのは、7月に開催された国際会議(世界音楽療法大会)の参加者が多かったため。(参加者2959名うち海外713名48か国)
		(1)観光の振興	②-35	観光客入込客数	経済部観光推進課	↑	概ね順調	356	万人	332	339	376	382	388	388	万人	H31年度	384	万人	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	観光基本計画に基づき、まつりつくば等のイベント開催、観光客目線でのパンフレット・マップ・WEB等を作成した広報活動の展開、都内イベント等での誘客キャンペーン、フットパスコースづくり、サイセンスツアーの充実、筑波山梅林の「おもてなし館」や市営第1駐車場整備や「フォレストアドベンチャー・つくば」などの整備を行い、観光誘客に取り組んできたこと。
		(2)移住・定住の推進	②-36	年少人口(0〜14歳)の転入超過数を増加させる	政策イノベーション部企画経営課	↑	順調	332	人	345	358	375	386	400	400	人	H31年	473	人	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	TX沿線開発等の効果が続き、子育て世代が流入していることから、引き続き高水準を維持している。
		(3)シティプロモーションの推進	②-37	SNS情報交流人口数(つくば市公式Facebookつくばファンクラブのいいね数)	市長公室シティプロモーション室	↑	概ね順調	7,392	いいね数	-	7,392	8,131	8,944	9,838	9,838	いいね数	H31年度	8,179	いいね数	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	市内外の方に市の様々な魅力情報を毎日発信することにより、つくば市に興味を持っていたが、継続して情報を受け取ってくれる支持者を「(いいね)をしてくれている方」増加させた。
			②-38	SNS情報交流人口数(つくば市公式Instagramつくばファンクラブのフォロワー数)	市長公室シティプロモーション室	↑	やや遅れ	0	フォロワー数	-	0	1,000	2,000	3,000	3,000	フォロワー数	H31年度	796	フォロワー数	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	若者層に向けてつくば市の魅力を発信するため、今年度から市公式Instagramを開始した。フォロワー数を増やすため、筑波大生と協働して大学祭での周知活動を実施したが、当日は悪天候であったため、人出が少なくフォロワー数を伸ばすことができなかった。
			②-39	市への愛着度	市長公室シティプロモーション室	↑	順調	29.2	%	29.2	-	30.6	-	32.12	32.1	%	H31年度	33.2	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	「つくば市交流サロン」における様々な催事の開催や、大学生との協働事業、SNSを活用した情報発信をととして、つくば市の魅力を市民に実感していただいたことにより、多くの方に市への愛着心(シビックプライド)の醸成を図ることができた。
Ⅳ 公共交通網で結ばれた安全で安心な地域をつくる	1 公共交通網の整備と拠点化を推進する	(1)交通移動体系の整備	②-40	つくバス利用者数	都市計画部総合交通政策課	↑	順調	888,032	人	924,373	960,714	997,055	1,033,396	1,069,739	1,069,739	人	H31年度	1,043,000	人	推計値(H30.4に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	つくばエクスプレス沿線開発による人口定着やつくバスの各種利便性の向上による利用者増。
			②-41	つくバスに満足している人の割合	都市計画部総合交通政策課	↑	順調	30.5	%	32.1	33.7	35.3	36.8	38.5	38.5	%	H31年度	52.8	%	推計値(H30.4に確定予定)	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	アンケート調査の質問項目を変更したことにより、アンケートの結果、満足度が高くなっている。
		(2)中心拠点(ハブ)への機能の集積と既成市街地との連携の推進	②-42	まちなか居住人口	都市計画部市街地振興課	↑	概ね順調	88,477	人	91,074	94,559	98,263	102,100	106,023	106,023	人	H31.10	98,828	人	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	定住促進やまちなみ誘導等により順調に人口が増加している。
			②-43	まちなか人口密度	都市計画部市街地振興課	↑	順調	36.13	人/ha	37.19	38.61	40.12	41.69	43.29	43.29	人/ha	H31.10	40.80	人/ha	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	定住促進やまちなみ誘導等により順調に人口が増加している。
	2 防災力・防犯力を強化する	(1)災害に強いまちづくりの推進	②-44	防災対策として防災用品や食料・水の備蓄を行っているひとの割合	市長公室危機管理課	↑	やや遅れ	58.4	%	59.4	-	60.4	61.4	61.4	61.4	%	H31年度	58.9	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	出前講座やパンフレット配布等により、自助推進の啓発を実施しているが、東日本大震災や竜巻災害直後は、防災意識が高いものの、年月の経過とともに低下している。
			②-45	自主防災組織の世帯カバー率	市長公室危機管理課	↑	順調	44.1	%	45.3	46.5	47.7	48.9	50.0	50.0	%	H31年度	63.7	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	全国各地の災害により、地域での防災意識が高まっている。また、共助の啓発が進んでいる。
			②-46	住宅用火災警報器設置率	消防本部予防広報課	↑	やや遅れ	66.0	%	75.0	75.0	80.0	80.0	85.0	85.0	%	H31年度	72.0	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	設置対象となる世帯への継続した戸別訪問の実施と設置済である新築住宅世帯が増加していることから、設置率が4%向上したが、 <u>が、目標値には至っていない。</u>
		(2)犯罪に強いまちづくりの推進	②-47	防犯活動に参加している市民の割合	建設部防犯交通安全課	↑	順調	14.4	%	15.0	17.0	19.0	21.0	23.4	23.4	%	H31年度	19.5	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	防犯意識の向上により、 <u>防犯活動への興味や関心が高まり、活動に参加する市民が増加している。</u>
			②-48	ジョギング・パトロール参加者数	建設部防犯交通安全課	↑	概ね順調	281	人	480	580	750	850	950	950	人	H31年度	678	人	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	防犯意識の向上により、 <u>ジョギング・パトロールの活動への参加者が増加している。平成29年度にKPIを高めに再設定したため目標を下回ったが、増加傾向は継続していることから概ね順調と見なすことができる。</u>
	3 協働のまちづくりを推進する	(1)地域コミュニティの活性化と市民協働の推進	②-49	区会・ボランティアなどの地域活動に関する満足度	市民部市民活動課	↑	概ね順調	49.6	%	51.1	51.8	52.5	53.3	54.0	54.0	%	H31年度	33.7	%	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	市民意識調査の満足度調査において、H25年度までは「区会・自治会などの地域活動」という項目で49.6%であったが、H27年度は「市民協働」に項目が置き換わり20.1%となった。H29年度は「区会・ボランティアなどの地域活動」となり33.7%だった。H27年度目標の51%には達していないが、上記の状況から直接の数値の比較が困難である。しかし、H29年度の「不満」「どちらかといえば不満」が17.8%で、「満足」「どちらかといえば満足」の約半数であり、また区会加入促進活動も活発に行われていることから、達成と同等と見なせる特段の理由があるとして、進捗を概ね順調とした。
			②-50	区会加入率	市民部市民活動課	↑	概ね順調	49.7	%	50.0	50.2	50.5	50.7	51.0	51.0	%	H31年度	-	%	推計値(H30.7に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	H29年度の加入状況は、H30年4月以降集計された数値として表示される。しかしH29年度中、PRグッズやチラシ・冊子の作成、新規設立説明会、各種イベントでの啓発活動、マンションや宅建業者への訪問、歩道橋での横断幕の設置など、区会加入促進活動を活発に行っており、新規区会も数多く立ち上がっていること、また学生が多い地域では、区会員ではなくても多数学生が清掃活動などの区会活動に参加していることから、達成と同等と見なせる特段の理由があるとして、進捗を概ね順調とした。
		(2)シニア世代の人材活用	②-51	子育て支援(一時預かり)事業におけるシニア世代の就業延べ人数	保健福祉部高齢福祉課	↑	やや遅れ	75	人	444	813	1,182	1,551	1,920	1,920	人	H31年度	899	人	推計値(H30.4に確定予定)	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	<u>利用者は年々増加傾向にあり、事業自体は順調に進捗しているが、当初設定した目標が高く、利用者の大幅な増加には至っていない。</u>